



# 環境活動レポート

---

**2018年度**

(自平成30年4月 至平成31年3月)

南信スバル 株式会社

---

発行日:2019年 6月20日  
改定日:2019年10月29日

# 目 次

- 1 会社概要……P1
- 2 EA21推進組織図……P2
- 3 環境方針……P3
- 4 環境目標……P4
- 5 主要な環境活動計画の内容……P5
- 6 環境活動の取組結果とその評価、次年度の取組内容……P6
- 7 環境関連法規への違反、訴訟等の有無……P8
- 8 代表者による全体評価と見直しの結果……P8
- 9 次年度の環境経営目標……P9

# 【1】会社概要

## (1) 事業所名

南信スバル 株式会社

## (2) 所在地

長野県飯田市上郷別府1381-1

## (3) 代表者氏名

社長 柴田 洋忠

## (4) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

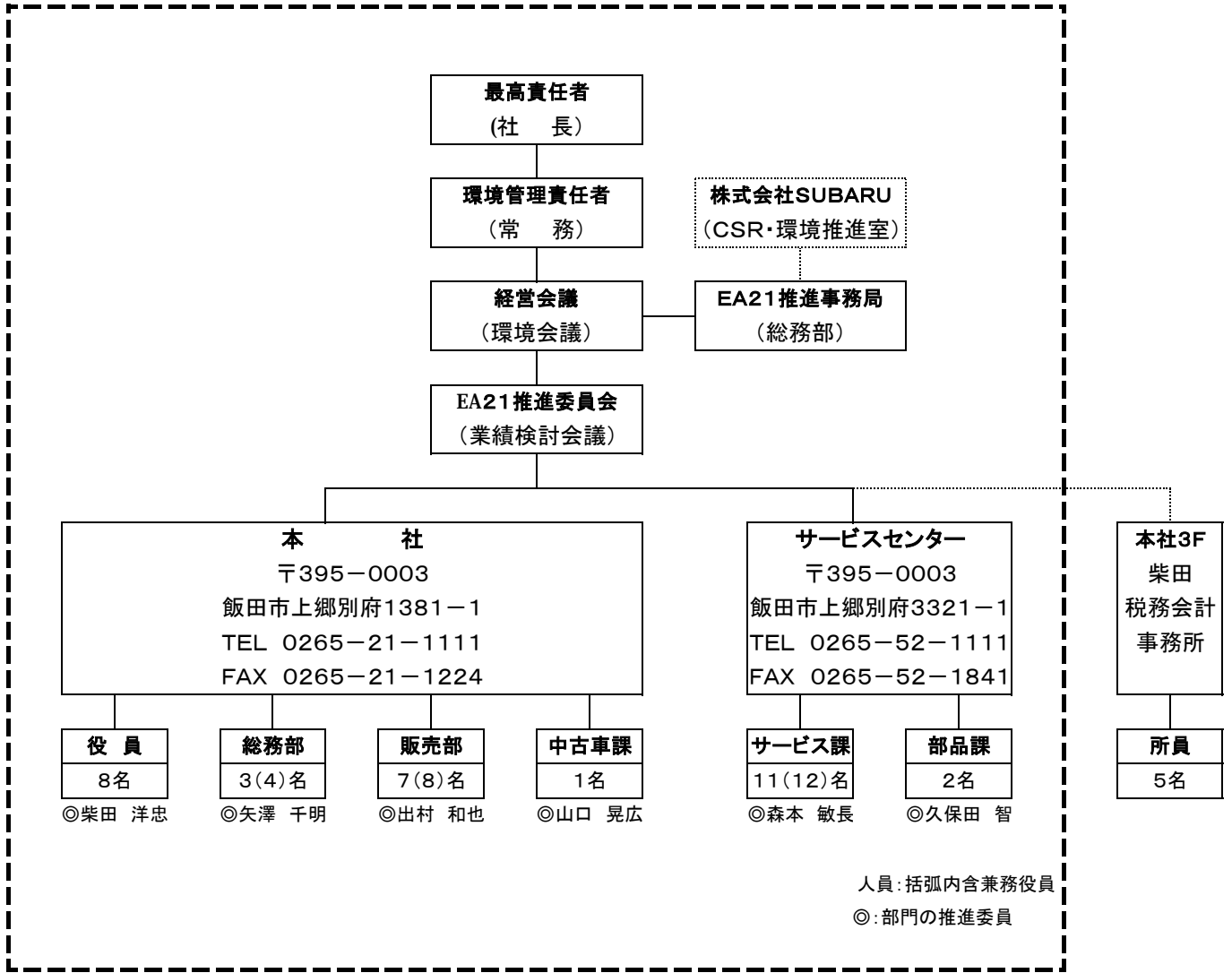
責任者	管理本部長	久保田和雄
事務局長	総務部長	矢澤 千明
担当者	総務部長	矢澤 千明
連絡先	電話 0265-21-1111	FAX0265-21-1224

## (5) 事業の内容

自動車の販売及び修理業、自動車部品の販売及び修理業、損害保険代理業  
自動車損害賠償補償法に基づく保険代理業、農業協同組合法に基づく共済代理業

## (6) 事業の規模

・売上高	114,637万円(2018年度)
・新車販売台数	321台(2018年度)
・中古車販売台数	175台(2018年度)
・従業員数	32人(2018年度末)
・拠点数	新車拠点1 中古車拠点1 整備拠点1



【対象範囲】太枠点線内の全組織・全活動を対象とする。

【経営会議及びEA21推進委員会の役割】

《経営会議》

- ・主催者：社長
- ・構成員：会長、社長、常務（環境管理責任者）、販売部長、サービス部長、総務部長（事務局）
- ・会議の目的：環境目標及び環境活動計画の検討と承認等環境活動に関わる重要な課題を経営会議の一部として議論するとともに、取組状況、目標の達成状況等を確認する。

《EA21推進委員会》

- ・主催者：環境管理責任者（常務）
- ・構成員：環境管理責任者、事務局、各部門推進委員
- ・会議の目的：環境活動の推進、情報伝達、意見交換等を通じて、全従業員にこれを浸透させる。

【推進責任者の役割分担】

《社長》

- ・環境マネジメント(EMS)執行の最高責任者、環境方針を定め、必要に応じて見直しを行う。
- ・環境への取り組みを適切に実行するための資源の用意をする。
- ・環境管理責任者を任命する。

《環境管理責任者》

- ・環境マネジメント(EMS)を確立・実施・維持する責任と権限を有する。環境方針に沿って全社環境目標を策定する。

《事務局》

- ・環境管理責任者を補佐し、EMSの確立・実施・維持全般に関する事務局業務を行う。

## 【3】環境経営方針

### 《基本理念》

飯田市は「自立定住圏構想」のもと「環境モデル都市」づくりを始めております。  
南信スバルも操業65年を迎え、地域密着型の企業として地元で認知されている中  
地域住民のより住みよい地域環境と地球の環境実現の為、経営活動のあらゆる面で  
環境に配慮し、社員とその家族、地域の皆様の安心と安全を第一に行動します。

### 《基本方針》

理念実現のため、当社が行う自動車および部品の販売、整備、修理、保険業務に関する  
事業活動が環境に与える影響を考慮し、以下の項目を全従業員へ周知徹底し、組織一丸  
となって環境保全活動を推進します。

### 【経営理念】

「自分と、自分の仕事・会社に自信を持ち、自分とその家族、お客様が幸せになれる会社」  
これを念頭に以下の項目を定めます。

1. サービス工場社屋新築を契機に、事業活動全領域で、省資源、省エネルギー（CO2削減を含む）、リサイクル活動、公害防止に配慮した活動を行います。左記を推進するにあたり労働法改正（働き方改革）も考慮し、従業員にも地球にもやさしい企業を目指します。  
廃棄自動車については「中古自動車リサイクルセンター」を活用した適正な処理に努めCSRに基づいた企業文化を築いて参ります。
2. 環境汚染を未然に防止すると共に、環境マネジメントシステムを強化し、これらの定期的なチェックにより環境パフォーマンスが継続的に維持・改善できるように努めます。
3. 適用する環境関連の法規制、条例、及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。左記もサービス工場社屋新築に伴い、景観条例なども見直し環境に配慮します。
4. 特に次の環境保全の重要項目に対して、環境目標を設定し取組み、必要があれば見直しを行いません。
  - ①省エネルギーの推進（電力使用量、燃料使用量）※労働法改正に伴う残業時間の削減を徹底する。
  - ②省資源（水使用量、紙使用量）※労働法改正に伴う残業時間の削減を徹底する。
  - ③廃棄物の排出抑制と適正処理（一般廃棄物及び産業廃棄物排出量削減）
  - ④化学物質管理の強化（PRTR法関連）
  - ⑤拠点周辺の清掃を積極的に行ない、地域の環境改善に貢献する
  - ⑥グリーン調達の実施
5. この環境方針を全従業員に周知徹底し、教育活動を推進します。

策定日：平成23年 4月 1日

改定日：平成31年 4月 1日

南信スバル株式会社

社長 柴田 洋忠

## 【4】環境経営目標

当社は環境への負荷が大きいと考えられる《エネルギー使用量》《廃棄物の排出量》の把握をし、削減活動に重点をおく。今中期目標期間(2018年度より2020年度まで)は2017年度を基準年度とし、年度1%、期間累計3%の削減を目論む。

リサイクルの推進を積極的に行う。

### (1) 環境負荷の状況 \*全社合計

項目	単位	2017年(基準年度)	
電気使用量	kWh	262,986	
燃料	ガソリン	L	25,535
	灯油	L	4,368
	軽油	L	1,624
	重油	L	0
	LPG	m <sup>3</sup>	596
	都市ガス	m <sup>3</sup>	0
水使用量	m <sup>3</sup>	437	
一般廃棄物	t	3.31	
産業廃棄物	t	16.07	
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	211,920.00	

### (2) 環境目標 \*全社合計

項目	単位	2018年度	2019年度	2020年度	
電気使用量	kWh	260,356	257,728	255,096	
(削減率)		1%	2%	3%	
燃料	ガソリン	L	25,280	25,024	24,769
	灯油	L	4,324	4,281	4,237
	軽油	L	1,608	1,592	1,575
	重油	L	0	0	0
	LPG	m <sup>3</sup>	590	584	578
	都市ガス	m <sup>3</sup>	0	0	0
	(削減率)		1%	2%	3%
水使用量	m <sup>3</sup>	433	428	424	
(削減率)		1%	1%	1%	
一般廃棄物*	t	3.28	3.24	3.21	
(削減率)		1%	2%	3%	
産業廃棄物	t	15.91	15.75	15.59	
(削減率)		1%	2%	3%	
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	209,801	207,682	205,562	
(削減率)		1%	2%	3%	
化学物質の管理	-	数量把握	数量把握	数量把握	

## 【5】主要な環境活動計画の内容(2018年4月1日～2020年3月31日)

### (1) 数値目標を達成するための取組(部門責任者)

- ① 電気使用量削減(総務部長 矢澤 千明)
  - ・節電への取組強化
  - ・冷暖房の室温、運転管理
- ② 燃料使用量削減(総務部長 矢澤 千明)
  - ・効率的な車の使用により、社有車を削減する
  - ・エコ運転の推進(エコドライブ2ヶ条【急発進・急加速】の励行)
- ③ 水道水の使用量削減(総務部長 矢澤 千明)
  - ・オフィスでの節水活動推進
  - ・車両洗車時の節水
- ④ 産業廃棄物の削減(サービス部長 森本 敏長)
  - ・マニフェストの完全運用
  - ・分別再資源化の強化

### (2) その他の取組

- ① 紙(コピー用紙)の使用削減
  - ・電子文書の使用拡大
  - ・コピー削減および裏紙再使用
- ② 廃自動車部品のリサイクルの順守
- ③ 環境関連法の順守(社員および関係者への教育)
- ④ 拠点での社会貢献環境保全活動の推進
  - ・事業所周辺の清掃活動
  - 地域密着型拠点実現のため地域社会への環境活動を進める
  - 地域町内会・自治会との協力等
  - ・お客様感謝デー等における安全講習、エコドライブ講習等の実施
- ⑤ EA21の取組みについて定期的な研修会・反省会の開催
- ⑥ 化学物質(エチレングリコール)削減の強化・少量ではあるが把握

## 【6】環境活動の取組結果とその評価、次年度の取組内容

### (1) 数値実績 \* 2018年度の実績

項目	単位	基準年度 (2017年度)	2018年度				
			削減目標	年間目標 (A)	実績 4～3月	対基準年削減率 判定	
電気使用量	kWh	262,986	1%	260,356	253,220	▲3.7% ○	
燃料	ガソリン	L	25,535	1%	25,280	26,377	+3.3% ×
	灯油	L	4,368		4,324	4,094	▲6.3% ◎
	軽油	L	1,624		1,608	1,656	+2.0% ×
	重油	L	0		0	0	—
	LPG	m <sup>3</sup>	596		590	566	▲5.0% ○
	都市ガス	m <sup>3</sup>	0		0	0	—
水使用量	m <sup>3</sup>	437	1%	433	443	+1.4% ×	
一般廃棄物	t	3.31	1%	3.28	3.33	+0.6% ×	
産業廃棄物	t	16.07	1%	15.91	15.96	▲0.7% ○	
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	211,920	1%	209,801	193,333	▲8.8% ○	
化学物質の管理	-	数量把握	数量把握	数量把握	数量把握	○	

判定記号:◎基準年度比大幅削減 ○削減達成 ×削減未達成

【註1】二酸化炭素排出量把握に用いた排出係数:2018年度時点の例示基準値0.458kg-CO<sub>2</sub>/kwh  
同時に基準年度の排出量も上記係数で再計算した数値に変更した。

【註2】2009年度より2018年度までの実績推移を次葉に掲載しておく。

### (2) 数値目標を達成するための取組結果

#### ① 電気使用量削減

- ・2018年度の対基準年増減率は▲3.7%となり、年度目標達成となった。
- ・前年度における空調機器の故障によるエアコン増設、太陽光発電設備の停止等により今季の増加が危惧されたが、節電の徹底等により達成できた。

#### ② 燃料使用量削減

- ・ガソリン使用量3.3%の増加
- ・一貫して削減のできていたガソリン使用量に増加の兆しが見える。  
増加幅は3.3%であり大幅増とは言えず、車販台数等とも連動する数値であるため来季に期待。
- ・デモカー等への給油量の定量化、給油カードの管理の徹底を行う。

#### ③ 水使用量削減

- ・上水の使用量は6m<sup>3</sup>、率にして1.4%増と目標未達成。
- ・市場措置対象車の整備在庫台数が増加しており、これに伴う洗車台数の増加により、地下水も含めた総使用量が増加となった。

#### ④ 廃棄物の削減

- ・廃棄物の内、産業廃棄物について15.96tとなり年度未達成となった。
- ・一般廃棄物については、基準年比+0.6%となり、僅差で未達となった。  
5S活動の継続実施と、分別処理の更なる徹底が鍵。

#### ⑤ 二酸化炭素排出量

- ・2018年度の排出量は、193,333kg-CO<sub>2</sub>となった。

### (3) その他の取組結果

- ・EA21推進会議(業績検討会議)において、毎月の数値を確認し、全社員に浸透を図った。

### (4) 次年度の取組内容

- ・2018年度の結果、何れの項目においてもその増減率が1ケタの範囲に収まっており、中期目標の達成が可能な実績となっている。2019年度単年度の目標必達。
- ・次年度の環境経営目標はP-4に記載のとおり。環境経営計画については2017年度を基準とした中期計画最終年度にあたり、その達成も可能なことから基本的に2018年度の活動計画を踏襲する。



【補足資料】

数値実績の推移

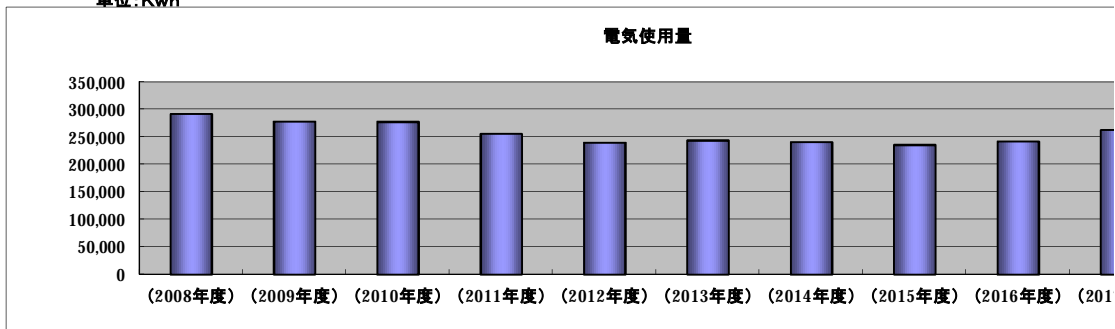
項目	単位	旧基準年度 (2008年度)	第1年度 (2009年度)	第2年度 (2010年度)	第3年度 (2011年度)	第4年度 (2012年度)	第5年度 (2013年度)	第6年度 (2014年度)	第7年度 (2015年度)	第8年度 (2016年度)	
電気使用量	kWh	292,073	278,546	277,607	256,041	240,169	244,150	240,728	235,801	242,082	
燃料	ガソリン	L	40,359	33,269	30,743	30,297	30,718	27,780	27,693	27,526	26,084
	灯油	L	8,165	3,183	4,127	5,038	4,841	5,691	5,020	2,400	3,564
	軽油	L	2,879	2,784	2,686	2,820	2,252	1,765	1,416	1,642	1,554
	重油	L	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	LPG	m <sup>3</sup>	299	385	331	227	178	163	557	659	571
	都市ガス	m <sup>3</sup>	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水使用量	m <sup>3</sup>	1,561	1,429	1,302	1,051	1,062	1,230	1,268	1,321	1,331	
産業廃棄物	t	48.69	40.94	29.04	27.98	28.39	34.59	22.15	17.58	14.04	
二酸化炭素排出量	kg-CO <sub>2</sub>	232,903	198,928	194,645	187,688	180,608	215,237	233,812	197,847	200,146	

【註】二酸化炭素の排出係数を下記基準で表示している。

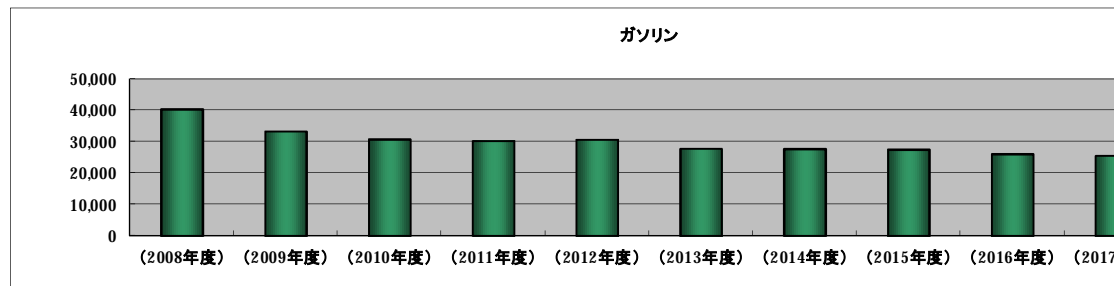
2008年度～2013年度:0.378kg-CO<sub>2</sub>/kwh

2014年度～2016年度:0.516kg-CO<sub>2</sub>/kwh

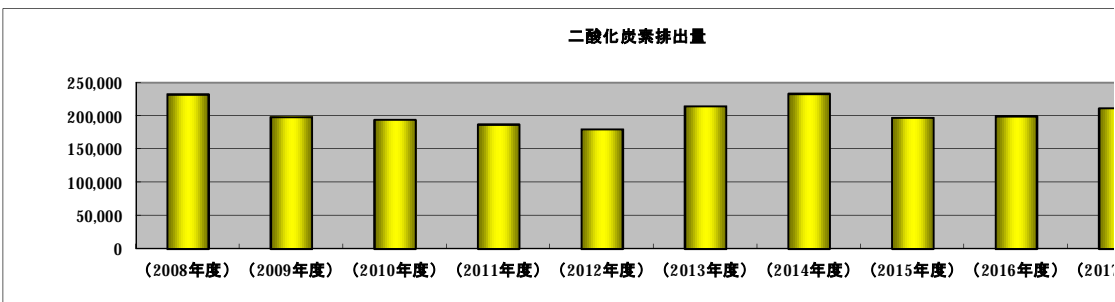
単位:Kwh



単位:L



単位:kg-CO<sub>2</sub>



## 【7】環境関連法規への違反、訴訟等の有無

### (1) 適用となる主な環境関連法規

主な適用法規	要求事項
水質汚濁防止法	特定施設の届出(自動車自動洗浄装置等)
下水道法	排水施設の設置義務 特定施設の届出
廃棄物処理法	廃棄物の適正処理 廃棄物業者との委託契約
消防法	少量危険物貯蔵所の届出
騒音規制法	特定施設の届出(該当設備無し)
振動規制法	特定施設の届出(該当設備無し)
化管法(PRTR法)	特定化学物質の排出量移動量の把握と記録、基準値以上の取扱量の場合に行政に届出
自動車リサイクル法	使用済自動車の適正処理
フロン排出抑制法	業務用空調機器等の定期点検(簡易点検を含む)とその記録保持。 廃棄時の適正処理

### (2) 違反、訴訟等

当社における環境関連法規への違反はありません。尚、関連当局より違反、訴訟等の指摘を受けたことは過去3年間ありません。

## 【8】代表者による全体評価と見直しの結果

前回の中間審査頃から続いたSUBARUメーカー諸問題の繁忙が、現在は収束してきている。収束の過程では、社員の疲労・疲弊軽減や環境活動への取り組みが緩まない活動に努めてきた。

昨今は、「労働法の改正」・「サービス工場社屋新築」に合わせて、それまで取り組んできたエコアクション21、CS活動、5S活動などをこれらの事象に紐付け、改善をしながら活動を継続できていることは評価に値する。

今後は、数字的改善はもとより、労働法の改正や新社屋建設を契機とし、社員の会社の事業活動や環境に対するマインドの向上を図っていきたい。

上記の外部的環境の変化が、今までの環境活動への更なる刺激を与えてくれるものと期待している。

次年度の環境経営目標

項目 No	2017年基準年度	今年度の環境経営目標 (2018年度末の達成したい目標値)	次年度の環境経営目標 (2019年度末の達成したい目標値)	備考 (環境目標設定時の考え方等)
1	* 基準年度 = 262,986kwh	* 電気使用量削減 1% * 数値目標 = 260,356kwh	* 電気使用量削減 2% * 数値目標 = 257,726kwh	* 全拠点の集計を確立する * 節電に取り組む * 冷暖房の室温管理
2	* 基準年度 ガソリン = 25,535L LPG = 596m3 軽油 = 1,624L 灯油 = 4,368 L	* 燃料使用量削減 2% * 数値目標 ガソリン = 25,280L 灯油 = 4,324L 軽油 = 1,608L LPG = 590m3	* 燃料使用量削減 2% * 数値目標 ガソリン = 25,024L 灯油 = 4,281L 軽油 = 1,592L LPG = 584m3	* 全拠点の集計を確立する * 効率的な車の使用 * ムダの少ない燃料の使用 * エコ運転の推進 ・社有車にエコ安全ドライブ2か条ステッカーの貼り付けを行う
3	* 基準年度 (購入枚数) 210,000枚	* 紙(コピー紙)の使用削減 1% * 数値目標(購入枚数) 208,000枚	* 紙(コピー紙)の使用削減 2% * 数値目標(購入枚数) 205,800枚	* 全拠点の集計を確立する * 電子文書の使用拡大 * コピー削減の努力 * 裏紙の使用推進
4	* 基準年度 = 437m3	* 水道水の使用量削減 1% * 数値目標 = 433m3	* 水道水の使用量削減 2% * 数値目標 = 428m3	* 全拠点の集計を確立する * オフィスの節水活動推進 * 洗車時の配慮
5	* 基準年度 = 3.31t	* 一般廃棄物の削減 1% * 数値目標 = 3.28t	* 一般廃棄物の削減 2% * 数値目標 = 3.24t	* 全拠点の集計を確立する * 排出量削減取組 * 分別再資源化の強化
6	* 基準年度 = 16.07t	* 産業廃棄物の削減 1% * 数値目標 = 15.91t	* 産業廃棄物の削減 2% * 数値目標 = 15.75t	* 全拠点の集計を確立する * マニフェストの完全運用 * 排出量削減取組 * 分別再資源化の強化
7	* 廃自動車部品のリサイクルの順守 リサイクルバンパー 廃フロンガス 廃エアバック	* 順守状況のチェック	* 順守状況のチェック	* 法規制、社内基準の順守
8	* 環境関連法の順守 法の未順守が無いこと ・PRTR届出、産業廃棄物管理	* PRTR法の順守 法の未順守が無いこと * エチレングリコールの数量把握	* PRTR法の順守 法の未順守が無いこと * エチレングリコールの数量把握	* 法規制、社内基準の順守 * 関係者への教育
9	* 拠点での社会貢献環境保全活動の ・事業所周辺の清掃活動 ・清掃活動実施拠点数増やす	* 全拠点活動の平準化。	* 全拠点活動の平準化。	* 地域密着型拠点実現のため地域 社会への環境活動を進める。 * 地域町内会・自治会との協力など
10	* 環境への理解を深める * 環境教育を実施	* 本社及び各拠点の管理者へEA2 1に関連した環境教育を行い浸透を 図る	* 本社及び各拠点の管理者へEA2 2に関連した環境教育を行い浸透を 図る	* 年間教育計画に基づき教育を実施
11		* お客様感謝デーにおけるエコドライブ講習 等の実施		
12	* 基準年度 = 211, 920kg- CO2	* 二酸化炭素排出量の削減 1% * 数値目標 = 209, 801kg- CO2	* 二酸化炭素排出量の削減2% * 数値目標 = 207, 682kg- CO2	

注記: 1) 中期環境目標(2020年度末)は、2017年度実績値を基準に設定する。

3) 今年度(2018年)の環境目標は、2018年度中期目標で定めたとおりとする。

4) 本社事務局は、上記環境目標の進捗を監視すると共に、達成状況を上期・下期毎に集計・評価し、問題があれば改善する。

5) 化学物質は、数値目標管理が困難なため、数値管理とする。